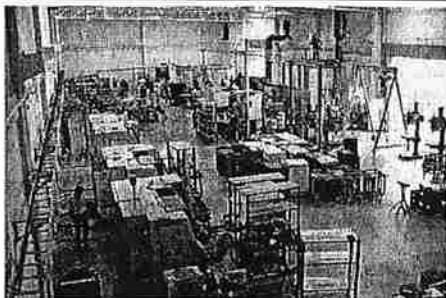


南武、タイ工場を移転・増設

金型用油圧シリンダー大手の南武（東京・大田、野村和史社長）は、標準品を造るタイ工場の生産能力を増強する。顧客である自動車用金型メーカーがタイに相次ぎ進出していることなどに対応。九千万円を投じて工場を移転・増設し、月内に稼働を始める。三年後にタイ現地法人の年間売り上げを、現在の三倍以上の四億八千万円に引き上げる。



タイでの自動車用金型産業集積に伴い、タイ工場を移転拡張した（バンコク近郊の「オオタ・テクノパーク」）

金型用油圧シリンダー増産

南武の概要

- ▽本 社 東京都大田区
- ▽創 業 1941年
- ▽事業内容 金型や製鉄機械用の油圧シリンダー製造・販売
- ▽単独売上高 18億5000万円
(05年9月期)
- ▽単独従業員数 112人

バンコク近郊の貸工場団地「オオタ・テクノパーク」に移転入居した。オオタ・テクノパークには大田区の中小企業が進出、大田区も様々な面で支援する。新工場の延べ

現地での売上高 3年後3倍狙う

床面積は従来賃借していた工場の三倍の約一千平方メートル。NC（数値制御）

工作機械などを新たに導入した。現地法人の従業員は現在四十人で、フル稼働時には百人規模まで増やす計画だ。油圧シリンダーの生産能力は従来約三倍の年間六千本に増える。

南武は自動車のエンジン部品などアルミ铸件を大量生産するために使うダイカスト金型に組み込む特殊油圧シリンダーの最大手。同社の小型油圧

シリンダーを使った金型は、複雑な形状の铸件を成型することができる。日本では複雑な特注油圧シリンダーを造り、タイではスリーブやピストンなど標準部品の加工や標準的な油圧シリンダーの

組み立てを手掛けている。日本や周辺の東南アジア諸国に標準部品などを輸出する拠点としての機能を強化する。南武の二〇〇六年九月期の単独売上高は、前期に比べて一三・五%多い二十一億円の見通し。

組み立てを手掛けている。日本や周辺の東南アジア諸国に標準部品などを輸出する拠点としての機能を強化する。南武の二〇〇六年九月期の単独売上高は、前期に比べて一三・五%多い二十一億円の見通し。